学校番号	3006

令和５年度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	工業デザイン実習	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	デザイン技術（海文堂出版）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

工業デザイン実習では、２年間工業デザインで学んできたことを基にして店舗設計をする。まず、どんなお店を作るのかを考える。最初のコンセプトワークをしっかりさせ、お店のロゴ・マークを制作する。その後、ロゴ・マーク・コンセプト・カラープランとともにロゴもしくはマークの入ったアイテムを作り、プレゼンテーションボードにまとめて発表する。発表後はそのお店のインテリアモデルを制作する。プレゼンテーションボードにまとめて発表する。

２ 学習の到達目標

工業デザインに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得したものを生かして実際に使用できるレベルの作品作りに挑む。使用する人の立場になりコンセプトワークを展開する。人に優しいデザインとは何か。クライアントが満足するものは何か。しっかり考えることが大事である。プレゼンボードやインテリアモデルを用いていかに表現出来るかを学ぶ。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	店舗設計に関する課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	コンセプトワークに関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	工業デザインに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	工業デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 コンセプトの記述 製作品 観察記録表 アイデアスケッチ、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 コンセプトの記述 製作品 観察記録表 アイデアスケッチ、発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 製作品 観察記録表 プレゼンテーションボード、自己評価・相互評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 製作品 観察記録表 プレゼンテーションボード、発表 自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	コンセプトワーク・ロゴ・マーク・アイテム制作	・コンセプトワーク ・マーケティングリサーチ ・プレゼンテーションボードの制作 ・発表 ・ロゴ・マークの制作 ・アイテムの制作	◎ ○ ◎ ◎ ○	◎ ○ ○ ◎ ○ ○	 ◎ ◎ ◎	○ ○ ◎	a:コンセプトワークを様々な観点から展開出来ている。クライアントが満足出来る。 b:ロゴ・マークのデザインがコンセプトにあったものが作れている。 c:アイテムの形が創意工夫されたものである。ロゴとマークにあったものである。 d:マーケティングリサーチを元に、プレゼンテーションボードがバランスよくレイアウトされていて、クライアントが満足出来る発表ができている。	学習状況の観察 コンセプトワーク・アイデアスケッチの記述 製作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等
2学期	発表・インテリアモデル制作	・プレゼンテーションボードの制作 ・発表 ・コンセプトワーク ・平面図作成 ・床・壁の制作、家具の製作、小物の製作 ・仕上げ加工	 ◎ ◎ ○ ◎ ◎	○ ◎ ◎ ○ ○	◎ ◎ ◎	 ○ ○	a:1 学期に作った作品のコンセプトに基づいて設計が出来ている。 b:動線を考えて平面図を作成する。 c:店内に置く家具や小物を正確に作る。その際、色彩計画に基づいて着彩する。 d:コンセプト・ロゴ・マーク・カラープラン・アイテムがプレゼンテーションボードにバランス良くレイアウトされている。 クライアントが満足出来る発表が出来ている。	学習状況の観察 コンセプトワークと平面図の記述 製作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等
3学期	プレゼンテーションモデル制作・発表	・インテリアモデルの撮影 ・プレゼンテーションボードの制作 ・発表	 ◎	○ ○ ◎	◎ ◎ 	◎ 	a:これまでに作った作品のコンセプトに基づいてプレゼンテーショボードを制作できている。 b:インテリアモデルの写真をプレゼンテーションボードに必要な構図で撮影する。 c:インテリアモデルを平面図に従って完成させる。合理的にレイアウトする。 D:発表会に使用するプレゼンテーションボードを美しく制作し、そのボードを用いて最後にクライアントに分かりやすく説明する。	学習状況の観察 製作品 観察記録表 レポート、発表 自己評価・相互評価 等

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。

13　工業

学校番号	3003

令和２度　工業科（工業デザイン系）

教科	工業	科目	工業デザイン実習（選択）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	デザイン技術（文部科学省/海文堂出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

これまで学んできたデザインと３年生で色々と学習する中で、更に将来自分が取り組んでゆきたい挑戦してみたいデザインの分野についてより深く、より実践的に学習し作業していく。自分の選んだデザインの分野で更なる技能を学び、自分が表現することを他者にも伝わるようにする。

2　学習の到達目標

これまで習得してきた工業デザインの基礎的、基本的な知識と技能を生かし、将来自分が実践応用できるように取り組む。作品などは、クライアント、使用者、制作者など人の立場を理解し合理的、能率的、経済的にその目的が達成されているか理解する。、

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	デザインの課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	デザインに関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	デザインに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 出席状況 課題への取り組み 発表・発言 グループワークへの参加状況	学習状況の観察 課題への取り組み 成果物 報告書の作成 発表・発言 相互評価・自己評価	学習状況の観察 課題への取り組み 成果物 報告書の作成 発表・発言	学習状況の観察 課題への取り組み 報告書の作成
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

ローテーション	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	テーマの決定と作業	選択のテーマを考える 決定テーマの年間計画を立てる 仮説の設定 作業内容の検討 テーマごとの作業 作業内容の検証 作業内容の改善	◎ ◎ ◎ ○ ○ ○ ○	 ○ ◎ ○ ◎ 	 ○ ◎ 	 ○ ○ ○	a:選択したテーマに関心をもち、意欲的に取り組む態度 b:テーマに対してのさまざまな仮説を立てるなど、思考・判断・表現を繰り返す c:各種資料をもちよるなど、状況に応じて調べる技能 d:作業内容に対して、検証を行い、適切な改善を行う	学習状況 出席状況 報告書作成 成果物
2学期	作業	作業内容の検討 テーマごとの作業 作業内容の検証 作業内容の改善 中間報告	◎ ○ ○ ○ ◎	○ ◎ ○	 ◎ 	 ○ ○ ◎	a:選択したテーマに関心をもち、意欲的に取り組む態度 b:テーマに対してのさまざまな仮説を立てるなど、思考・判断・表現を繰り返す c:各種資料をもちよるなど、状況に応じて調べる技能 d:作業内容に対して、検証を行い、適切な改善を行う	学習状況 出席状況 報告書作成 成果物
3学期	作業	作業内容の検討 テーマごとの作業 作業内容の改善 報告書の作成	◎ ○ ○ ◎	○ ○	 ◎ 	 ○ ◎	a:選択したテーマに関心をもち、意欲的に取り組む態度 b:テーマに対してのさまざまな仮説を立てるなど、思考・判断・表現を繰り返す c:各種資料をもちよるなど、状況に応じて調べる技能 d:作業をまとめる力	学習状況 出席状況 報告書作成 成果物

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。